

## 地理情報を加味した生活サービスの展開事例

- 少子高齢と人口減少社会に対応した生活サービスの再構築に関する研究(その3) -

正会員 ○金久 絵里\*1 同 三堂早紀子\*1

同 古川 恵子\*2 同 友清 貴和\*3

少子化 高齢化 人口減少 生活サービス 地理情報

## 1. はじめに

その2で類型化した生活サービスを地域で実践するには、類型化で設定した項目を地域の要素におきかえ展開する必要がある。そこで本稿では、類型化した生活サービスを地域に展開していく方法を探ることを目的とし、類型化で設定した項目に地域の要素を対応させた表1をもとに分析していく。

本稿は、その2の知見より狭域的な中学校区エリアを事例として分析する。以下に対象地域の概況を位置(地理的環境)と土地利用からおさえる。

## ①皇徳寺中学校区(以下、皇徳寺)

鹿児島市中心部から西に約6km離れた丘陵地にあるニュータウンである。住居専用地域であることから物質拠点が一部に集中しており、また公共交通がバスのみであることから、移動手段は自家用車に依存する傾向がある。

## ②甲南中学校区(以下、甲南)

鹿児島市のほぼ中央部かつ平地に位置する市街地である。一般住宅と商業地域との複合地域で、各種大学や専門学校、会社が存在し、20歳以上の若者層の入れ替わりが顕著である。また甲南は、公共交通のターミナル拠点でもあり、非常に利便性の高い地域である。

2. 地理情報<sup>\*)1</sup>の分析

## 2-1. 生活サービスのニーズ

生活サービスのニーズを、人口構成と推移(図2・3)より推測する。皇徳寺は、10~20・45~55歳層が大部分を占める構成となっている。図3より、年少人口の割合は、現在H5年と比較すると約半数にまで減少し、急速に少子化が進んでいる。また老年人口の割合は図2と照らし合わせると、今後確実に高齢化が進んでいくことがわかる。これより、皇徳寺は著しい少子高齢化社会を迎えることから、高齢化分野の生活サービスが必要であるとわかる。

甲南は、他の地域よりも比較的人口が多い地域である。その中でも流入人口の多い20~35歳層が大部分を占めている。図3より、年少人口がH13年から現在まで増加しており、また若者の人口が常に保たれていることから、今後は緩やかに老年人口の割合が伸びてくると考える。しかし、老年人口は他の地域より多いことから、甲南も高齢化分野の生活サービスが必要であると考える。

表1. 類型化で設定した項目と地域の要素との対応表

類型化で設定した項目			地域の要素	
提供と受け入れ関係	提供者	施設	自治組織	提供拠点・提供者・生活サービスの概要
	支援形態	自治組織	町内会加入率	地域連携の基盤
	単独/協働	人口の構成と推移		生活サービスのニーズ
提供手法	対象者	施設や主な主体の事業内容(サービス内容)		
	サービスの形			
	行く/来る			
広がり	費用の有無	土地利用		地域の概況
	人やものの量	位置(地理的環境)		
	距離の遠近	交通		
	時間の長短			
	圏域			

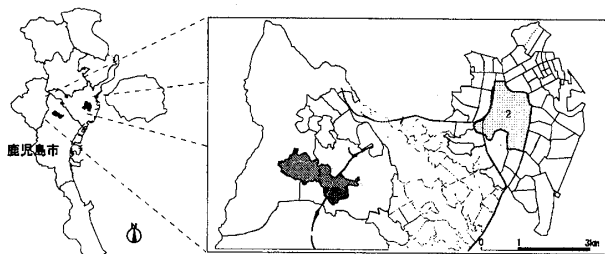


図1. 対象地域

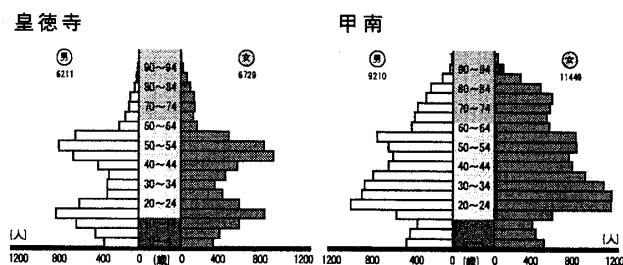


図2. 年齢別人口構成(H18年9月)

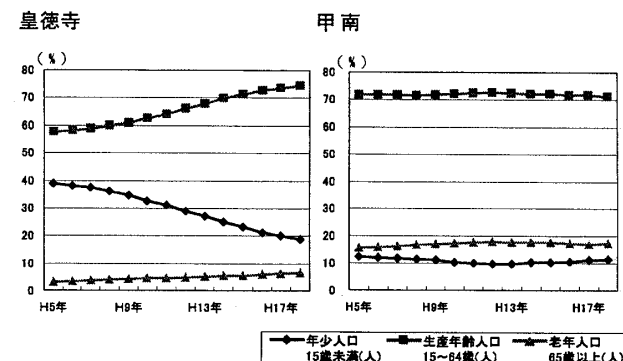


図3. 年齢3区分人口割合の推移

Analysis of the life service case using the geographical data

A study on reconstruction of the life service corresponding to less children, aging and population reduction society

\*1 KANEHISA Eri, \*1 MIDO Sakiko

\*2 FURUKAWA Keiko, \*3 TOMOKIYO Takakazu

表2. 自治組織と町内会加入率

自治組織	皇徳寺(郊外住宅地)		甲南(市街地)	
	地域住民組織	公民館審議会・愛護連絡協議会・老人クラブなど		
	NPO法人数	3	16	
町内会加入率		87.4%	48.0%	

表3. 施設数

	施設数	学校教育		社会教育				医療	社会福祉		公園	商業・金融		行政・管理			
				幼稚園	学校	専門学校	校区公民館	地域福祉館	自治公民館	児童クラブ	市の施設	医療施設	福祉施設	公園	SC	スーパー	銀行
		皇徳寺 中学校区	1	3	0	2	1	13	2	0	8	4	0	16	1	1	1
甲南 中学校区	3	4	3	2	1	4	2	1	45	4	17	7	2	4	7	5	1

医療・公園施設・生活福祉

【注】医療・保健施設は、皇徳寺・甲南両校区に設置されている。

表4. 類型化したサービスの提供可能な拠点数

圏域	3分野	皇徳寺		甲南	
		拠点数		拠点数	
			%		%
中学校区内	少子化分野(35種類)	11	31.4%	10	28.6%
	高齢化分野(41種類)	4	9.8%	16	39.0%
	人口減少分野(34種類)	11	32.4%	18	52.9%
	合計	26	23.6%	44	40.0%

## 2-2. 生活サービス拠点の把握

## (1) 地域連携の基盤

皇徳寺・甲南ともに公民館審議会や老人クラブなどの地域住民組織が存在する。皇徳寺は町内会加入率が87.4%と高いのに対し、NPO法人は3主体存在する。甲南は、町内会加入率が48%と低いのに対し、NPO法人は16主体存在する。

## (2) 中心主体(サービス拠点)の把握

地域に存在する施設を学校教育、社会教育、医療・保健、社会福祉など7分野に分類し、地域に存在する施設を押さえる(表3)。皇徳寺は公園や狭域施設である自治公民館が多く、甲南は高齢者福祉施設が多いのに加え、市や県単位の広域施設も存在する。

(1)(2)で挙げられた施設や主な主体の事業内容をおさえ、類型化した生活サービスを展開できる拠点数(表4)と、提供者を洗い出した。皇徳寺の拠点数は、少子・人口減少分野が約30%であるのに対し、高齢化分野は約10%と低くなっている。甲南の拠点数は、人口減少分野が半数を超えており、少子化分野の拠点数は皇徳寺より少ないことがわかる。皇徳寺の主な提供者は、保育園などの民間組織や地域住民組織であり、甲南の主な提供者は、医療法人・社会福祉法人などの民間組織やNPO法人、市区町村である。

## 3. 考察

前節の知見より、類型化したサービスを地域で展開するには、サービスのニーズを考慮すると、展開できる拠点に加え、皇徳寺・甲南ともに、高齢化分野のサービス拠点を構築する必要があると考える。また、生活サービスを展開する中心主体は、皇徳寺では地域住民

が、甲南は多種多様な民間組織やNPO法人が中心になってくると考える。

## 4. まとめ

今回は、狭域的な中学校区エリアを事例に分析をした。類型化した生活サービスを中学校区にて実践する際に、まず必要と考える視点を具体的に挙げる。

## ①土地用途、位置(地理的環境)

地域の概況をおさえるとともに、サービスの提供可能な範囲や移動に要する負担などが大きく変わるため考慮する必要がある。

## ②人口の構成と推移

サービスの場合、対象地域の人口構成によりサービスのニーズが異なるためおさえておく必要がある。

## ③町内会加入率、自治組織、施設

地域のニーズに対応するには、まず展開できるサービス拠点を洗い出すことが必要である。そのためには、地域に存在する施設に加え、地域住民のつながりやNPO法人による自主的な活動をおさえておく必要がある。

①②③の要素をおさえることで、類型化した生活サービスの提供者を地域の実情に見合うように見直すことができる。また、サービス拠点をおさえられ、拠点のないサービスの構築にもつながると考える。

## 4. 総括

本研究では、少子高齢化・人口減少に関する社会問題を総合的に扱い、現在から近未来を見据えて、地域(狭域)に見合った生活サービスの展開方法を探ってきた。(その1)では、先進的事例よりサービスの内容を把握し、生活サービスを特徴づける提供者・サービスの形・広がり3視点を洗い出した。(その2)では、前稿の3視点を提供手法・提供と受け入れ関係・サービスの広がり3視点より類型化し、提供形態の特徴をつかんだ。(その3)では、類型化で設定した項目を地域の要素におきかえ、それらの地域の要素を分析し、地域へと展開していく方法を探ってきた。

今後は、さらに表1の他の要素について分析をし、地域に見合った生活サービスへと導いていく。また、他の範囲においても必要な視点を洗い出していく。

## 【付記】

本研究(その1～その3)は、平成17年度科学研究費基盤研究(C)(2)(課題番号17560552)の補助を受けたものである。

## 【参考文献】

文1) 本間俊雄、友清貴数ほか：複層化セル・オートマトンによる地方都市の解析モデル、日本建築学会計画系論文集、第568号、pp.93-100、2003.6

## 【注記】

注1) 厳密には、皇徳寺中学校区は皇徳寺台1～5丁目に加え、五ヶ別府町・山田町・中山町も含まれるが、本稿では、ニュータウンの特徴に注目するため、3町丁字は考慮しない。

注2) 校区公民館とは、小学校区を単位にしてS48年に設置された公民館制度であり、小学校の敷地内に設置された社会教育施設である。

注3) 地域福祉館とは、地域住民の福祉の増進に寄与する施設で、簡易老人憩いの家・福祉ルーム・児童ルームを設置している。

\*1 鹿児島大学大学院修士課程

\*2 鹿児島女子短期大学教授・博士(学術)

\*3 鹿児島大学教授・工博

Graduate School, Dept. of Architecture, Kagoshima University  
Prof., Kagoshima Woman's Junior College, Ph.D.  
Prof., Dept. of Architecture, Kagoshima University, Dr. Eng.